

松田町立松田中学校

研究テーマ：学習する生徒が主役となる授業づくり ～学び方（リテラシー）を育てる教育へ～

1、実践の目的

(1) 研究主題について

対話的な学びを通じて「思考力、判断力、表現力等」を育成するために、学習者の視点に立って「学習する生徒が主役となる授業づくり」を進めるとともに、生徒一人ひとりの「学び」を確かなものとするための視点として「指導と評価の一体化」を一層重視することによって「主体的・対話的で深い学び」の実現をめざし、「学ぶよろこび」を実感しながら資質・能力を身につけることができる学びづくりを進める。

(2) 主題設定の背景について

近年、PISA 調査などの国際学力調査で見えてきたことは、自ら考えたり、考えたことを表現したりする力に課題があるということである。教師主導の一斉学習や講義形式の授業と、記憶の再現や再生を測定するだけのペーパーテストから脱却し、「思考力・判断力・表現力等」を育成する授業へと変える必要がある。そのために「学習者の視点に立って授業改善を進める」ことが重要であると考える。

2、実践の内容

(1) 授業改善のプロセス

本校は、令和元年度より授業改善アドバイザーとして東京医療学院大学保健医療学部客員教授 三浦修一氏を招き、継続的に授業改善を進めてきた。今年度は、それぞれの教員が考えた単元デザインをグループごとに検討し、単元全体の学習プロセスの根本

的な見直しを図った。

研究協議（授業づくりカンファレンス）には学習者である生徒も参加し、いかに資質能力を育成できたかや、そのための授業をどのように行ったかについて皆で考えた。



単元デザイン

生徒のワクワクが続き、
学びを生かそうとしている。――
私たちが目指すのは
そんな単元デザインです。
単元の先に思い描く、
成長した生徒の姿。
その実現に必要な
魅力ある「問い」を考えます。



グループ検討会

教科の枠を越えて、
グループで行う授業検討会。
異なる教科だからこそ
気づくことや、
学び合えることがあります。
「みんなで一緒に考える」
これが最も重要です。



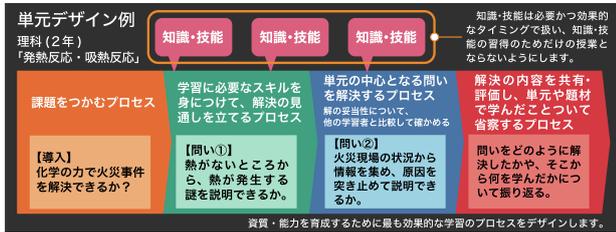
授業づくり カンファレンス

授業の主役は、学習する生徒。
だから、授業づくりについて
生徒と一緒に考えたい。
授業に参加する者が
みんなで考える授業研究会。
それが、松田中学校の
「授業づくりカンファレンス」

(2) 単元デザインと学習プロセス

資質・能力の育成は、単元を通して着実に行われる必要がある。そのために、単元の学習指導計画(単元づくり)を意識した授業改善が求められる。しかし、学習プロセスを見直さないまま単元づくりを行っても、授業改善の効果が薄いということがこれまでの

取組で見えてきた。そこで学習科学の視点を取り入れながら、学習プロセスの再設計を行った。



授業者は学習プロセスを意識しながら「単元デザインシート」を作成し、それをもとにグループで授業検討を行った。教科ごとに特色ある単元デザインを考え、どのようなゴールに向かって学ぶのかやゴールまでのプロセスを学習者と共有できるように工夫した。⇒学びのプラン



単元名	【明日の天気を予報できるか ～信頼される気象予報士を目指して～】 (全10時間)										
授業	オンライン	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
めあて	「信頼される気象予報士になるために、気象予報のしくみや信頼される理由を学ぶ。		気象予報のしくみや信頼される理由を学ぶ。		信頼される気象予報士になるために、気象予報のしくみや信頼される理由を学ぶ。		気象予報のしくみや信頼される理由を学ぶ。		信頼される気象予報士になるために、気象予報のしくみや信頼される理由を学ぶ。		「信頼される気象予報士になるために、気象予報のしくみや信頼される理由を学ぶ。」
授業の流れ (イメージ)	導入		展開		展開		展開		展開		まとめ
評価	【知識・技能】		【知識・技能】		【思考・判断・表現 1】		【思考・判断・表現 2】		【思考・判断・表現 3】		【思考・判断・表現 4】
具体的なつづけた力 (=評価規準)	気象予報のしくみや信頼される理由を学ぶことができる。		気象予報のしくみや信頼される理由を学ぶことができる。		気象予報のしくみや信頼される理由を学ぶことができる。		気象予報のしくみや信頼される理由を学ぶことができる。		気象予報のしくみや信頼される理由を学ぶことができる。		気象予報のしくみや信頼される理由を学ぶことができる。

(3) 学び力を身につけるためのスキル

学び力を身につけるためのスキル Ver. 1.0					
	発信する	処理する	受け止める		
言語	受け手に伝わりやすい表現を工夫して発信する。	伝えたい内容を表現の仕方とあわせて組み立てる。	受け止めた内容の意味を、自分の表現に書き直す。	発信者の想いや意図を想像する。	言葉や記号などの意味を確かめながら受け止める。
情報	身の回りや社会をよりよくすることを目標として発信する。	発信したい内容を、表現の仕方とあわせて組み立てる。	集めた情報の内容を、自分の表現に書き直す。	情報の内容を比べて、よりよいものを選び出す。	どのような情報が必要かを考え、取集める。
解決	課題をよりよく解決できる内容で提案する。	よりよい内容が提案できるように、表現の仕方とあわせて組み立てる。	課題を解決するためのいくつかの提案を比べて検討する。	解決方法について、複数の見通しをもつ。	問われている課題をどのように受け止めたのか表現する。

「言語」とは、言葉だけでなく、地図の記号、数字、図形、数式で用いられる記号、化学記号、音符、色、トーン、ピクトグラム、身体表現、態度など、非言語コミュニケーションの要素を含むあらゆるコミュニケーションツールをさしている。

同じ学習内容でも、どのように受け止め、

処理し、発信するかによって、学びの質は大きく変化する。学習の「受け止め・処理・発信」のそれぞれの段階で、生徒にどのように学ぶかについて、目指してほしい方向を学習者に示した。「言語」「情報」「解決」は、学習指導要領総則に示されている「学習の基盤となる資質・能力」に対応させた。

3、実践の成果

本校は、単元づくりから授業を変える授業改善に継続的に取り組んでいるが、その根幹となる学習プロセスを見直し、「学校としてどのような学びを実現するか」を明確にしたことで、より学習者の視点に立った授業づくりを実現できた。とくに単元デザインシートは、授業をアップデートする強力なツールとして機能することが期待される。

生徒は、授業づくりカンファレンス等の経験を通じて、よりよい学びを授業で実現するために学習者として何ができるかを積極的に考えるようになった。生徒がエージェンシーを発揮することができる学校を実現することが、学びづくりにおいてきわめて重要であると考えている。

4、今後の展開

校内で策定した「中長期学びづくり計画」に沿って、これまで本校は「授業改善のための土台(プラットフォーム)づくり」に集中して取り組んできた。次年度より「学びの質的成長」へとフェーズを移行し、学習者の「学び力」を育てる教育の実現を目指して授業改善を進めていく。その初期段階として、学習のさまざまな場面での「受け止める」を意識し、「何を、なぜ学ぶのか」について考えながら学習を進めることができるように「受け止め」のスキルの育成を図る。